



ワンコイン
ブック

報ほう 恩おん

四
衢
亮



東本願寺出版

報ほう

恩おん

四よつ

衢つじ

亮あきら

恩徳讃

親鸞聖人は、「如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も ほねをくだきても謝すべし」という和讃をうたっておられます。私たちの迷いの有様をよくよく明らかにし、私が自分自身に目を覚ますことを開いてくださった阿弥陀仏のお心には、労苦をいとわず身をもってそのご恩に報いなければなりません。また、その阿弥陀仏の本願を私に教えてくださった先生や伝えられた歴史の恩徳についても、一心に努力して謝していかねばならないとうたわれます。

親鸞聖人は、いただいた恩徳については、身を挙げて存在全体で報じ謝していこうと言われるのです。また報じ謝するということと合わせた報謝という表現があります。この報謝という表現は、親鸞聖人から数えて八代目の蓮如上人がよく用いられています。真宗門徒にとつて、一年を通じて最も大切な仏事として伝わる報恩講について、蓮如上人は、阿弥陀仏の教えとそれを私たちに